

学校・地域・家庭の連携に関する社会教育の取り組み

資料10

No.	名称	事業目的及び根拠	事業内容	令和3年度実績		令和4年度予定	
					決算額 (千円)		予算額 (千円)
1	社会教育委員会議	学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から12名の社会教育委員を委嘱する。教育委員会が行う社会教育行政に対して、定例会や研修会などの活動を通して、行政外の立場から広く町民の皆さんの意向を反映した意見をいただき、社会教育活動の拡充や振興を図っていく。	●委員12名(任期:令和4年4月1日～令和6年3月31日、任期は2年) ●定例会において社会教育上の課題事項について審議する。	●定例会3回	244	●定例会3回程度の開催を予定 うち1回は管外研修を予定 ●その他町行事への参加	605
				●研修会等への参加(山城地方総会、京都府総会、京都府研究大会、近畿地区研究大会)		●研修会等への参加(山城地方総会、山城地方研修会、京都府総会、京都府研究大会、近畿地区研究大会)	
2	青少年健全育成事業	乳幼児期から青少年期にいたるまでの諸課題の解決を図るため、各種研修会等を開催するとともに、児童・生徒に対する学習・体験の機会を提供する。 また、青少年の健全育成を図るための活動を進める社会教育関係団体等の活動を支援する。	●家庭教育のあり方を学ぶ「家庭教育学級のびのびコース」を実施する。	●家庭教育学級のびのびコース計18回(前期8回・中期8回・後期2回のべ45組受講)新型コロナウイルス感染拡大防止のため縮小実施 ●委託業者:シージーエス	288	●家庭教育学級のびのびコース計20回(前期10回・後期10回、のべ31組受講予定) ●委託業者:シージーエス	320
			●小学校クラス代表児童による「子ども議会」の開催(見直し)	●新型コロナウイルス感染症の先行きが不透明な中、子ども議会の一連の取組みへの時間確保が困難であること、また、ねらいとしている活発な意見交換は感染症対策を徹底した中で行うことが難しいため中止。		●主権者教育を推進するため、模擬体験に終始してきた子ども議会ではなく、中学校での総合的な学習の中で、子どもたちが精華町のまちづくりに関心を持ち、調べ学習を通じ、まちづくりの現状と課題や、課題解決のための取組みを探求する学びの機会を確保するなど、子どもたちが政治や未来を考える新しい取組みに転換を図る。	
			●PTA連絡協議会に対する活動助成。各校PTAとの共催による講演会の実施する。	●PTA連絡協議会に対する活動助成 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業が中止になったため助成金の申請がなかった。	0	●PTA連絡協議会に対する活動助成	114
			●青少年健全育成協議会に対する活動助成	●青少年健全育成協議会に対する活動助成 ●防犯ブザー配布、夏季健全育成パトロール、青少年健全育成標語募集事業等	721	●青少年健全育成協議会に対する活動助成 ●防犯ブザー配布、夏季健全育成パトロール、青少年健全育成標語募集事業等	950
			●次世代の親となる中学生を対象とした子育て講座を実施する。	●精華中及び精華南中において、1学年と3学年を対象に助産師による講演を実施(学校教育課へ執行委任)	80	●学校教育課予算へ移管	0
3	子ども祭り事業	本町の「こどもを守る町」宣言や精華町教育大綱の趣旨を踏まえ、子どもが楽しみながら体験・学習し、世代を超えた人と人との交流を通して文化・芸術を伝承する機会とするため、地域全体が協働・連携し、様々な体験学習やイベントなどの取り組みを実施する。	「精華町子ども祭り」を開催し、子どもたちに体験を通じた学習の場を提供する。	●令和3年11月21日(日)けいはんなプラザメインホール せいか祭り同日開催(縮小開催)教育委員会主催 ステージの部(6団体)、体験コーナー中止、観客約2,000名 関係者及び出場者約250名	1,134	●令和4年11月20日(日)けいはんなプラザ せいか祭り同日開催(舞台発表、体験コーナー)を予定 ●実行委員会構成団体 精華町教育委員会、社会教育委員会、保育所、幼稚園、小・中学校、PTA連絡協議会、カラフル発達な子の親の集い ふらりーご、民生児童委員協議会、ボランティア連絡協議会、青少年健全育成協議会、精華女性の会、身体障害者協議会、老人クラブ連合会、文化協会、NPO法人スポーツ協会	2,000

学校・地域・家庭の連携に関する社会教育の取り組み

資料10

No.	名称	事業目的及び根拠	事業内容	令和3年度実績		令和4年度予定	
					決算額 (千円)		予算額 (千円)
4	地域で子どもを育てる連絡協議会	精華町地域で子どもを育てる連絡協議会設置要綱に基づく機関。関係団体等が緊密に連携し、地域全体の教育力の向上や地域の活性化を図り、もって、次代を担う子どもを育てる良好な環境づくりを推進する。	精華まなび体験教室事業、地域学校協働本部事業、子どもの安全・安心な環境づくりに関することについて、関係機関及び団体と連携を行う。	●会議1回(2月に書面開催による)	0	●会議1回	0
5	精華まなび体験教室事業	子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、文化活動やスポーツ活動などを地域の方々の協力を得て実施することにより、地域社会の中で、子どもたちを心豊かで健やかに育てる環境づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ●精北教室:月1回土曜日午前。学習、文化活動、異世代交流等。 ●川西教室:月1回水曜日放課後。学習、文化活動、異世代交流等。 ●山田荘教室:月1回水曜日放課後。学習、文化活動、異世代交流等。 ●東光小教室:年5~6回。学習、文化活動、異世代交流等。 ●精華台教室:年5~6回。学習、文化活動、異世代交流等。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響により学校施設を使用した事業計画を立てることが困難であったので殆どの計画が実施できなかったが、子ども祭りステージの部で、初めてのまなび体験教室5校合同開催として、雅楽の演奏や舞を鑑賞して日本の伝統文化に触れる体験と併せ、まなび体験教室事業のPRを行うことができた。また、各学校に1名配置するまなびコーディネーターと準備会・協議を2回開催した。 	163	<ul style="list-style-type: none"> ●年間5-10回、文化活動やスポーツ活動などを実施 ●コーディネーター1名、ボランティアで運営 ●年間5-10回、自主学習(宿題)の後、文化活動やスポーツ活動などを実施 ●コーディネーター1名、ボランティアで運営 ●年間5-10回、文化活動やスポーツ活動などを実施 ●コーディネーター1名、ボランティアで運営 ●年間5-6回。学習、文化活動、異世代交流などを実施 ●コーディネーター1名、ボランティアで運営 ●年間5-6回 自然観察などを実施 ●コーディネーター1名、ボランティアで運営 ●放課後児童クラブと連携し、どちらのプログラムへも参加できるよう連携を図る ●実施回数が少ない小学校の活動内容の充実を目指す 	890
6	地域学校協働本部事業	地域と学校が相互にパートナーとして連携・協力し、互いに意見を出し合い、学び合う中で地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深めることにより、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につなげて行く。	<ul style="list-style-type: none"> ●平成20年度から、精華南中学校区(山田荘小学校・精華南中学校区サポーター会議)の地域学校協働活動に取り組んでいる。 ●平成22年度から、精華中学校区(精華中学校コミュニティ協議会)の地域学校協働活動に取り組んでいる。 ●平成25年度から、精華西中学校区(精華西中学校区地域連携プロジェクト)の地域学校協働活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コーディネーター:1名、週4日間程度 ●ボランティア参加者のべ人数:精華南中学校約30名、山田荘小学校約100名 ●会議の開催やボランティアによる協働活動を実施 ●地域コーディネーター:1名、週4日間程度 ●ボランティア参加者のべ人数:精華中学校約50名、精北小学校約40名、川西小学校約70名 ●会議の開催やボランティアによる協働活動、コミュニティースクールとの連携に取り組む。 ●地域コーディネーター:1名、週4日間程度 ●ボランティア参加者のべ人数:精華西中学校約40名、東光小学校約70名、精華台小学校約200名 ●会議の開催やボランティアによる協働活動を実施 	2,202	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コーディネーター:1名、週4日間程度 ●ボランティアの協力を得て、地域学校協働活動を実施 ●地域コーディネーター:1名、週4日間程度 ●ボランティアの協力を得て、地域学校協働活動を実施 ●コミュニティースクールとの連携を実施 ●地域コーディネーター:1名、週4日間程度 ●ボランティアの協力を得て、地域学校協働活動を実施 	2,769

4,832

7,648